

---

平成24年（2012年）3月期  
決算説明会

2012年5月25日

JASDAQ:3423

 株式会社 **エスイー**

# 目次

- I. 平成24年3月期業績  
および平成25年3月期業績予想
- II. 平成24年3月期 事業報告
- III. SECグループの今後の戦略

# Ⅰ. 平成24年3月期業績 および 平成25年3月期業績予想

# ■ 損益計算書(連結)

(単位:百万円)

	平成23年3月期 実績	平成24年3月期 実績	前年同期比	
売上高	15,368	15,405	36	0.2%
営業利益	529	371	△157	△29.8%
経常利益	538	393	△145	△27.0%
当期純利益	318	255	△62	△19.7%
一株当たり当期純利益	41円49銭	33円33銭	△8円16銭	

## 売上高

- 東日本大震災発生による被災地優先のための公共事業費5%執行保留や、西日本における台風12号および15号による工事中止の影響で減少
- 「建築用資材」の市場環境の回復と東日本大震災の復旧需要取込みによる大幅な売り上げ増加

## 営業利益

- 利益率の高い工場製品の販売が伸びず減少

## 経常利益

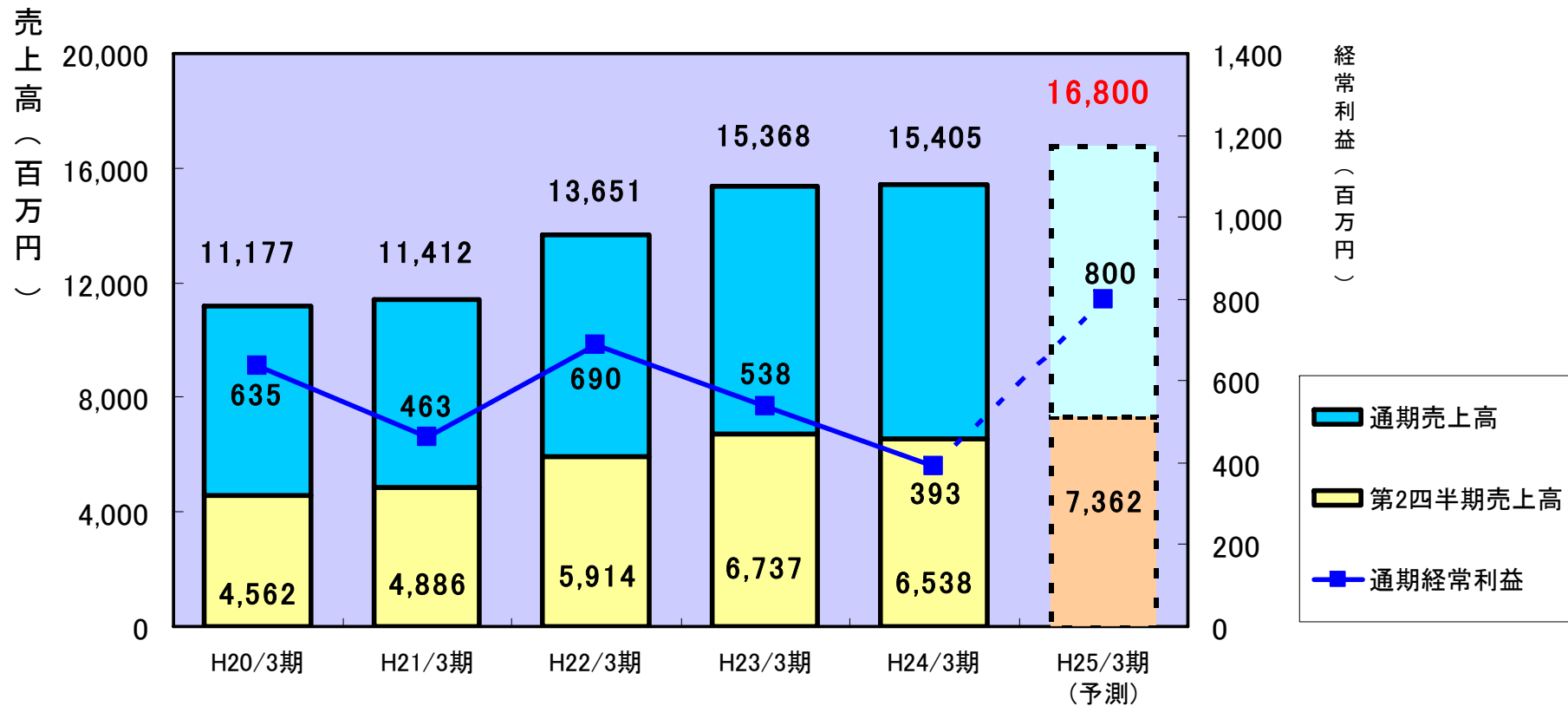
- (株)コリアエスイーにおける持分法投資利益が11,920千円増加

## 当期純利益

- 特別利益で退職給付引当金戻入額(18,272千円)、退職給付制度終了益(4,425千円)の発生
- 特別損失で特別退職金の発生

# ■ 売上・経常利益の推移

(連結) 売上高・経常利益の推移(平成20年3月期～平成25年3月期(予))



# ■セグメント別売上高

(単位:百万円)

区 分		平成23年3月期 実績		平成24年3月期 実績		前年同期比	
		売上高	構成比	売上高	構成比		
建設用資機材の 製造・販売	環境・防災分野	8,952	-	8,067	-	△884	△9.9%
	橋梁構造分野	1,686		1,507		△178	△10.6%
	その他分野	234		489		255	109.1%
	小計	10,872	70.7%	10,065	65.3%	△807	△7.4%
建築用資材 の製造・販売		3,675	23.9%	4,336	28.1%	660	18.0%
建設コンサルタント		795	5.2%	931	6.0%	136	17.2%
その他 <sup>※</sup>		24	0.2%	72	0.5%	47	189.7%
合 計		15,368	100.0%	15,405	100.0%	36	0.2%

- ※「その他」の区分には、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、バイオマス事業等を含んでおります。
- 売上高は百万円未満を端数処理(切捨て)しておりますので、内訳数値と合計値が一致しない場合があります。

# ■ 貸借対照表(連結)

(単位:百万円)

	平成23年3月期末	平成24年3月期末	前期末比較	
流動資産	12,406	12,908	502	4.1%
固定資産	5,440	5,283	△156	△2.9%
資産 合計	17,846	18,192	346	1.9%
流動負債	7,405	7,414	8	0.1%
固定負債	4,238	4,505	266	6.3%
負債 合計	11,644	11,920	275	2.4%
純資産 合計	6,201	6,272	71	1.1%
負債・純資産 合計	17,846	18,192	346	1.9%

(平成23年3月期末)

(平成24年3月期末)

■ 自己資本比率

34.7%

34.5%

■ 一株当たり純資産

806円95銭

816円43銭

# ■CF計算書(連結)

(単位:百万円)

	平成23年3月期 実績	平成24年3月期 実績	前年同期比	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,009	301	△707	△70.1%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△377	△120	256	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	91	250	159	175.3%
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	△6	0	—
現金及び現金同等物 増減額	715	425	△289	△40.5%
現金及び現金同等物 期首残高	2,491	3,206	715	28.7%
現金及び現金同等物 期末残高	3,206	3,632	425	13.3%

## 主なCF項目の要因

- 営業活動によるCF: 税金等調整前当期純利益 3億85百万円、のれん償却を含む減価償却費2億86百万円、仕入債務の減少額 △2億24百万円、法人税等の支払額△1億93百万円 など
- 投資活動によるCF: 有形固定資産の取得△1億2百万円、無形固定資産の取得△10百万円 など
- 財務活動によるCF: 長期借入による収入 19億68百万円、社債の発行による収入1億円、長期借入金の返済による支出△13億18百万円、社債の償還による支出△2億54百万円、親会社による配当金の支払い額△1億53百万円 など



# ■平成25年3月期 業績予想(連結)

(単位:百万円)

	平成24年3月期 通期 実績	平成25年3月期 通期 予測	前年同期比	
売上高	15,405	16,800	1,394	9.1%
営業利益	371	776	404	108.7%
経常利益	393	800	406	103.2%
当期純利益	255	471	215	84.1%

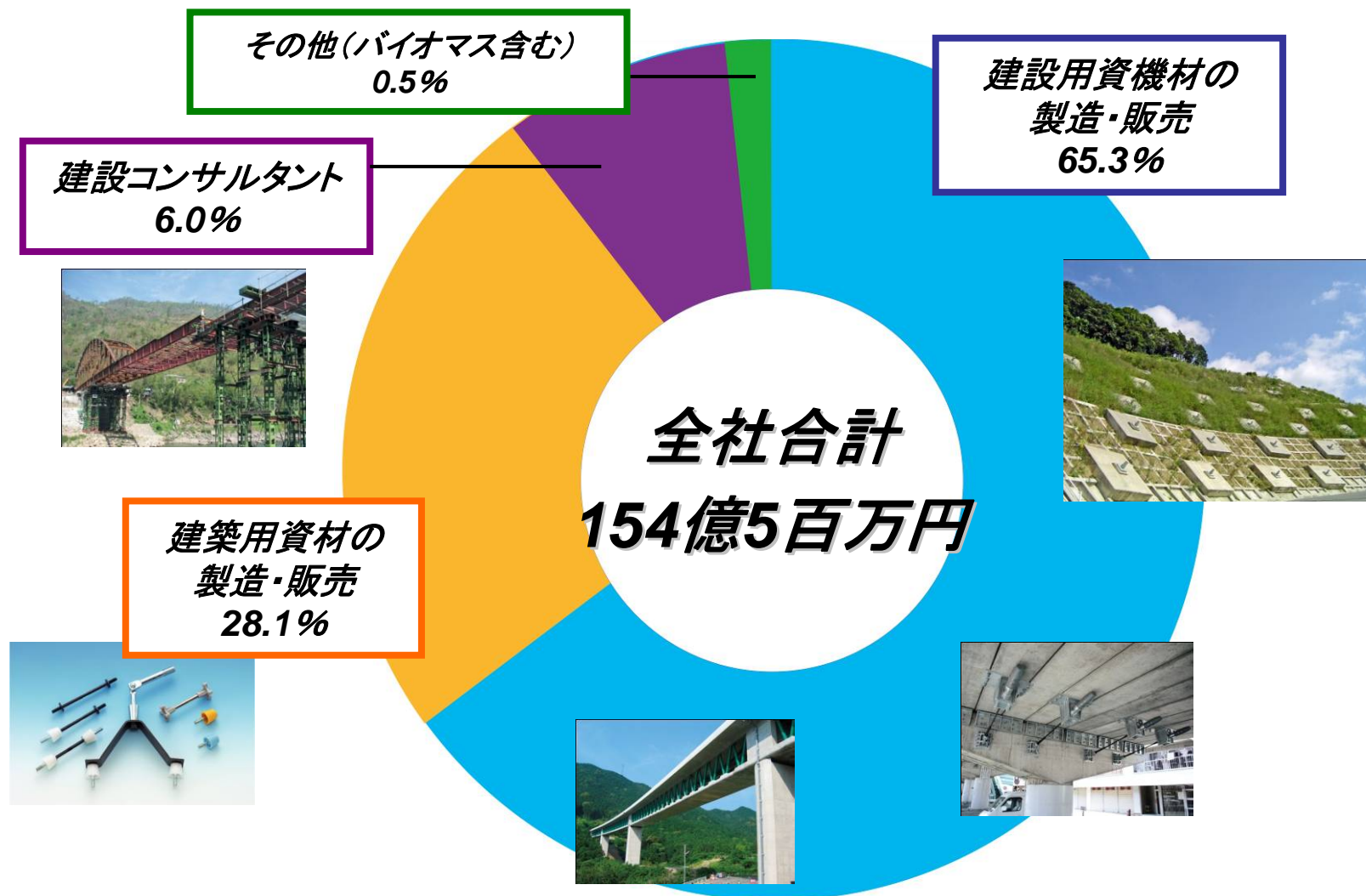
◆ 平成25年3月期 期末配当金 **1株当たり 20円**(予定)

## ■ 一株当たり当期純利益・配当金及び配当性向の推移(連結)

	平成21.3期	平成22.3期	平成23.3期	平成24.3期	平成25.3期 (予測)
一株当たり 当期純利益(円)	31.77	51.68	41.49	33.33	61.35
一株当たり 配当金(円)	20	20	20	20	20
配当性向(%)	63.0%	38.7%	48.2%	60.0%	32.6%

## II. 平成24年3月期 事業報告

# ■ 平成24年3月期セグメント別 売上構成



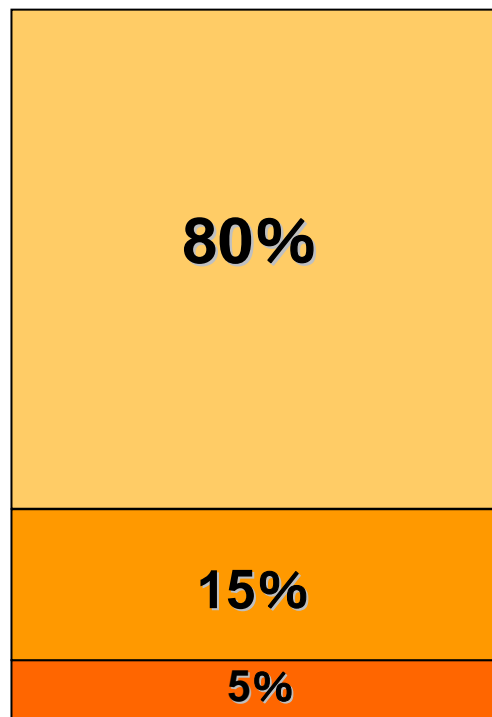
# ■ 建設用資機材の製造・販売

## (株) エスイー

売上高 : 100億65百万円

営業利益 : 2億1百万円

<各分野の内訳>



### ◆環境・防災分野

売上高 80億67百万円

- アンカー
- 落橋防止装置
- KIT受圧板 など

### ◆橋梁構造分野

売上高 15億7百万円

- PC用ケーブル
- 外ケーブル
- 斜材 など

### ◆その他分野

売上高 4億89百万円

- 建設用機材のレンタル
- リペア・テクノ事業

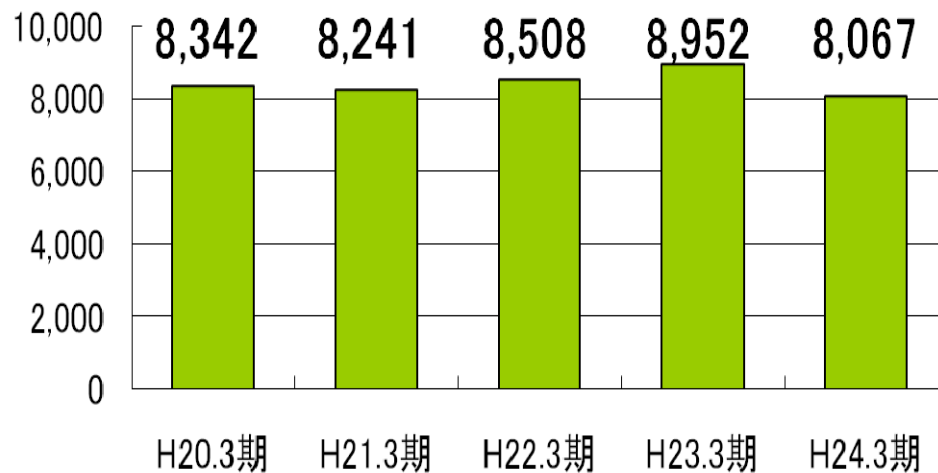
# 建設用資機材の製造・販売

## ◆ 環境・防災分野

売上高 80億67百万円(前年同期比9.9%減)

- 東日本大震災の発生に起因した**公共事業費5%執行保留**による影響。
- 西日本における**台風12号及び15号**による**工事中止**の影響。
- 市場縮小や価格競争の激化という厳しい環境の中、**主力製品である『アンカー』とその関連製品『KIT受圧板』が増加。**

### ＜環境・防災分野の売上推移＞



- ◆ アンカー
- ◆ 落橋防止装置
- ◆ KIT受圧板 など



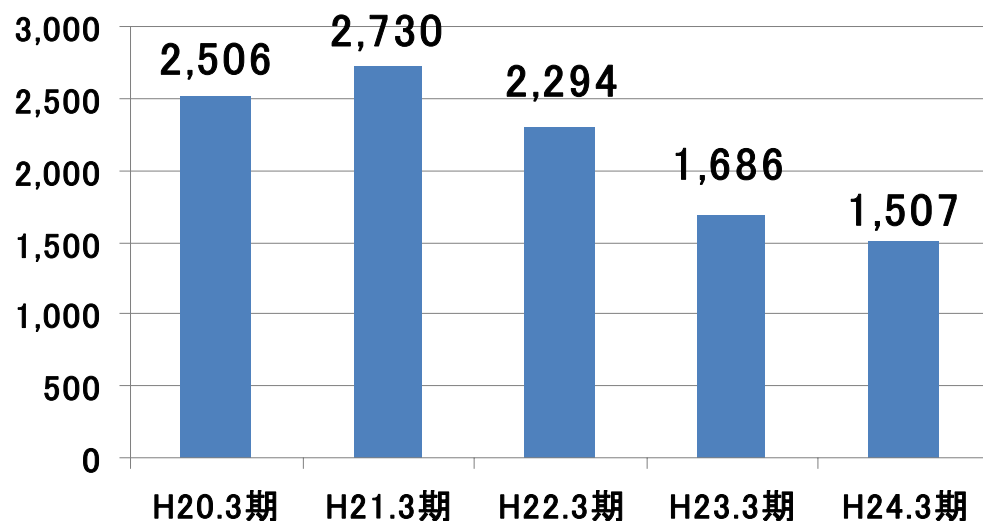
# 建設用資機材の製造・販売

## ◆ 橋梁構造分野

売上高 15億7百万円(前年同期比10.6%減)

- ー 前年同期には韓国的大型物件(ハミョン大橋)があったが、当連結会計年度にはこのような大型物件の受注がなかった為、**斜材ケーブルの売り上げが減少**。
- ー 老朽化や災害対策に対応し、橋梁等の補強に用いられる『外ケーブル』の売上が、今期は前期比減となったものの**近年増加傾向**。

### <橋梁構造分野の売上推移>



- ◆ PC用ケーブル
- ◆ 外ケーブル
- ◆ 斜材 など



# ■ 建設用資機材の製造・販売

## ◆その他分野(レンタル、リペア・テクノ事業)

売上高 4億89百万円(前年同期比109.1%増)

- ー 受注物件減少の影響により、施工用機材のレンタル売上が前年同期比67百万円36.7%減少。
- ー リペア・テクノ事業の売上は前年同期比3億23百万円658.3%増加。
- ー 更なる事業拡大に向けて補修・補強事業専門の工事会社をM&A。

## < リペア・テクノ事業 >

### 施工事例

	Project ①	Project ②	Project ③
施主	官公庁(元請)	官公庁(元請)	民間
工事名称	北陸自動車道大慶寺川橋 PC外ケーブル補修工事	浦田橋他橋梁補修工事	平成23年度 九州地区保全工事 (橋梁補修)
施工場所	石川県	福岡県	九州地区(下関含む)全域
工期	H23.12.27~H24.3.15	H23.8.1~H24.3.31	H23.11.5~H24.3.13
請負金額	2,180千円	10,381千円	168,000千円

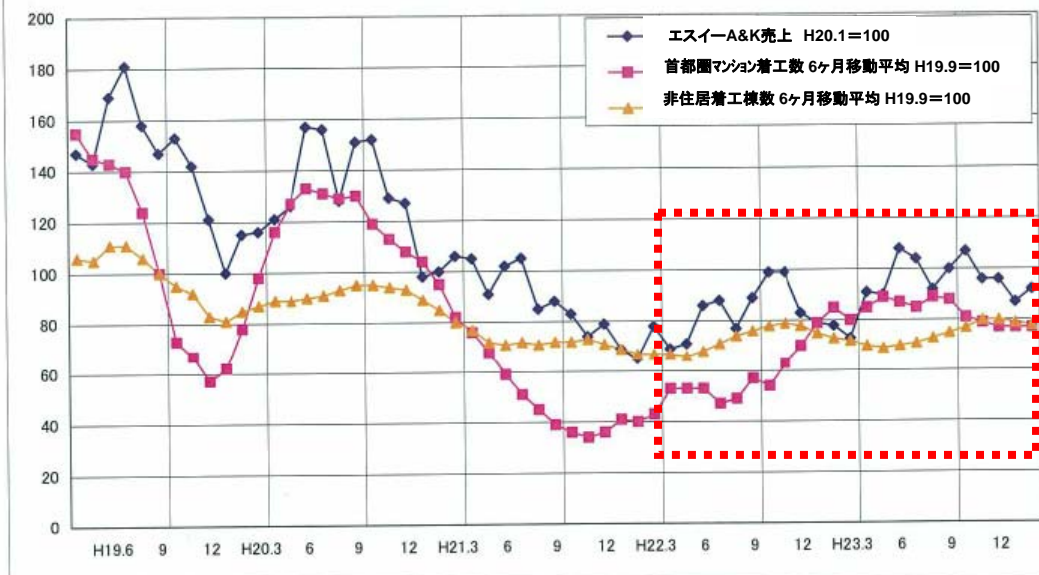
# ■ 建築用資材の製造・販売

## ◆ エスイー A & K 株式会社

売上高 43億36百万円(前年同期比18.0%増)

- 子会社2社を合併して経営効率化を徹底し、**営業利益2億24百万円(前年同期比307.5%)の増収増益。**
- **市場環境の改善**により、業績指標となる「首都圏新設マンション着工数」および「非住居着工棟数」も回復。
- 東日本大震災の**復旧需要の取り込み。**

＜首都圏マンション着工戸数・非住居着工棟数と売上の相関関係＞



(国土交通省 建築着工統計調査報告書より)

### ■ 首都圏マンション着工戸数

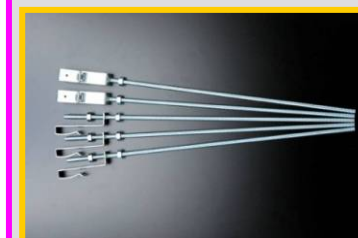
★『セパレーター』に最も関連する指標

	総数(戸)	前年比(%)
平成22年度	57,482	66.6 ↑
平成23年度	69,190	20.4 ↑

(国土交通省 建築着工統計調査報告書より)



＜セパレーター＞



＜吊りボルト＞

### ▲ 非住居着工棟数(民間)

★『吊りボルト』に最も関連する指標

	棟数	床面積(万㎡)	前年比(%)
平成22年度	65,833	3,740	7.3 ↑
平成23年度	67,717	4,050	8.3 ↑

(国土交通省 建築着工統計調査報告書より)

**両指標とも上向きの回復傾向**

**+ 復旧需要の取り込み**



# ■ 建設コンサルタント

## ◆ 株式会社アンジェロセック

売上高 9億31百万円(前年同期比17.2%増)

- 環境省から受注した大型案件の消化などにより、前年同期比で売上高が増加。
- 現地政府発注の完工物件で回収不能の貸倒損失などにより、営業損失は25百万円(前年同期は33百万円の営業利益)。

## JICA・外務省によるODA案件に強み

- ・ブータン国 サイクロン災害 復興支援計画
- ・コンゴ国 キンシャサ市ポワ・ルー通り道路4車線化計画
- ・チュニジア国 地方都市水環境改善事業準備調査

他

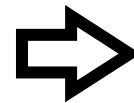


水環境改善事業準備調査  
(チュニジア)



サイクロン災害復興支援計画  
準備調査(ブータン)

さらに...



## 新規の分野・顧客・案件実施国の 開拓、多様化に注力

### Project ① 環境省案件

日本政府提案のアフリカにおける「温暖化効果ガス削減のための新メカニズム」体制構築支援事業

◆ 国連主催の会議やCOP17へも参加し調査を実施



### Project ② インドネシアの鉄道案件

インドネシア国 ジャワ南線複線化事業(フェーズⅢ)

### Project ③ 案件のリスク分析

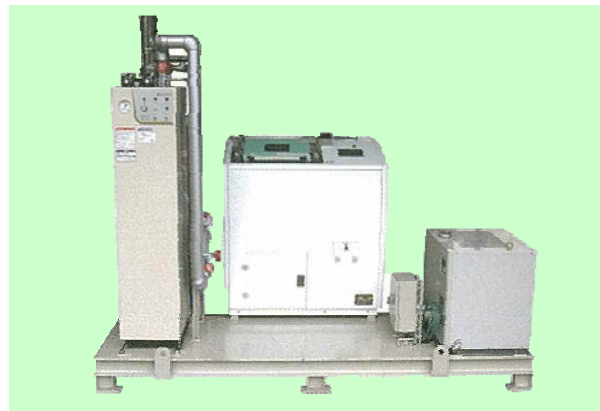
公共施設等運営事業等におけるリスク分担等に関する検討業務 他  
(国内のPPP事業推進に関わる業務)

# ■ バイオマス関連

## ◆ エスイーバイオマステクノ株式会社

売上高 72百万円(前年同期比189.7%増)

- 営業利益11百万円(前年同期比17.2%減)。
- 事業の効率的・効果的な発展を図るため、今後、研究開発は(株)エスイーの新製品開発部として展開。
- 食料残さ処理機、浄水・淡水化装置など従来事業については引き合い等にあわせ、引き続き受注生産。



◆ 食料残さ乾燥装置(FED1000): 今期 2台納入

## III. SECグループの今後の戦略

### ◆ 成長戦略の基本

#### (1) 既存事業の安定

- (株)エスイーの充実
- エスイーA&K(株)の成長
- (株)アンジェロセックの拡充

#### (2) 今後の成長戦略

- P P P
- エスイーリペア株式会社(補修・補強事業)
- 新製品開発: 超高強度コンクリートの実用化

## 【公共事業費の削減】

平成24年度公共事業関係費

**4兆8,137億円** (地域自主戦略交付金を含む)  
(対前年比△3.2%)

### 建設市場全体の縮小

- ◆公共事業関係費は平成21年から3年間で31.9%の急激な減少となっており、国内市場は非常に厳しい状況にある。

### 価格競争(ダンピング)激化

- ◆製品によっては他社との差別化が難しく価格競争になるため、利益率の確保が厳しい。

① 国内市場の縮小 → 海外展開／PPP

# ■ ① 海外展開、PPP事業提案

## ◆ ベトナム PPP(BOT方式)による事業提案

ベトナム子会社である **VJEC** を中心に、エスイーおよびアンジェロセックで連携して事業提案を実施。(●は次ページに地図記載)

### ● ハロン-ハイフォン道路『Bach Dang橋』整備 (PPPプロジェクトの提案)

ーハロンとハイフォンを結ぶ高速道路25kmのうち、橋梁部分5kmの建設工事案件。



<調印式の様子>

<上記以外に進行中のベトナム案件>

- 『ハノイ-ハイフォン間高速道路 施工管理業務』  
ー全長110kmの施工管理(建設は中国、韓国企業)
- 『Nhat Le (ニャットレ) 2橋デザインチェック業務』
- 『Bai Chay(バイチャイ)橋 法面対策調査設計業務』  
ー JICAより受注  
ー IDI(国際建設技術協会)との連携



<Nhat Le (ニャットレ) 2橋>

# ■ ① PPPによる海外展開

## ◆ ベトナムにおけるプロジェクト現場



## 【インフラの戦略的な維持管理】

### 新設橋梁の減少

- ◆ 社会インフラの多くを管理・運営する地方公共団体等の予算が切迫しており、新設案件は公共事業費の削減と共に減少傾向。

### 社会資本老朽化

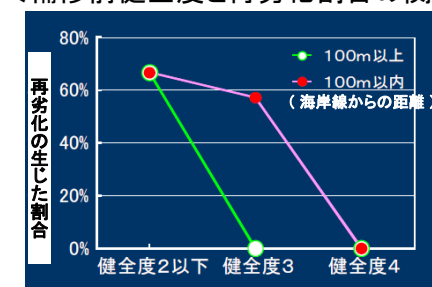
- ◆ 一方で、更新期を迎える橋梁は10年で25%、20年で51%に急増し2011年からの50年間で更新費用は190兆円必要と言われている。特に一度補修したインフラの再老朽化が問題になっており、限られた予算のなかでインフラの補修・補強や地震への対策が課題となっている。

＜建設後50年以上経過する社会資本の割合＞

	2009年度	2019年度	2029年度
道路橋	約8%	約25%	約51%
河川管理施設 (水門等)	約11%	約25%	約51%
下水道管きよ	約3%	約7%	約22%
港湾岸壁	約5%	約19%	約48%

(国土交通省資料より作成)

＜補修前健全度と再劣化割合の関係＞



(独立行政法人土木研究所 資料より)

② 既存インフラの戦略的な維持管理が必要 → 補修・補強事業／新製品開発



## ■ ② 補修・補強事業

### ◆ エスイーリペア株式会社（既設橋等の補修・補強）

#### ● M&Aの実施（技術・人材・実績の継承）

- ・32年の実績と経歴を有し、補修補強の施工に特化した技術力を持つ工事会社とリペア・テクノ事業部が合併。 → 「土木・建築請負業」領域への効率的な事業拡大
- ・技術提案型の事業展開：事業分野は橋梁、トンネル、海洋構造物、栈橋、揚油施設、放水路のほか、プラントの基礎分野など。
- ・エスイーの持つエンジニアリング力を活用し、九州から中国・近畿地方への積極的な事業展開を推進。



#### ● 老朽化した交通網の整備、地震対策



- ・首都高の大規模改修においては市場規模1兆円と言われるなど、老朽化した交通網の整備の必要性が注目される。また、首都直下型地震等に備えて耐震性に優れた整備を行う必要がある。
- ・これらに対し、非破壊検査技術により老朽化を早期に発見し、老朽化の進行前に補修を行うことを提案。

#### ● 構造物用の超高強度コンクリートの開発 → 補修・補強分野への応用

### 【東日本大震災の復旧・復興】

#### 震災の復旧・復興

- ◆ 港湾、漁港、橋梁、道路、鉄道などの復旧・復興が急がれる。

#### 防災、耐震補強

- ◆ 東京首都圏の大型直下型地震、および近畿首都圏・中部首都圏での東海・東南海・南海地震の発生が懸念される。南海地震が発生するとその影響はさらに四国、九州まで及ぶため、これらに対応する補修・耐震補強が必要となる。また、一部老朽化が始まっている阪神高速道路等も耐震補強を行う必要性がある。このように各種災害に備えて交通網や建築物等の耐震補強需要の増加が見込まれる。

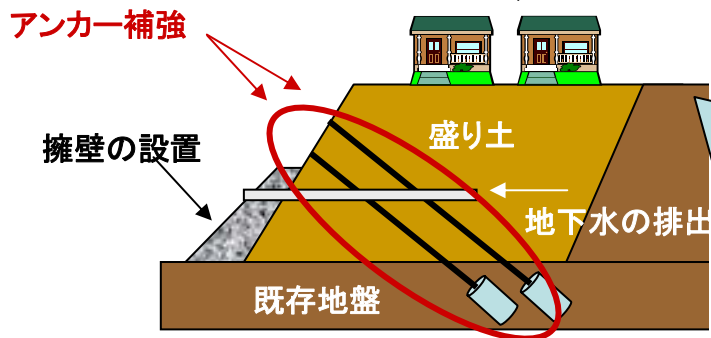
③ 大災害からの復旧・復興、防災  
→ インフラの耐震補強

# ■ ③ インフラの耐震補強

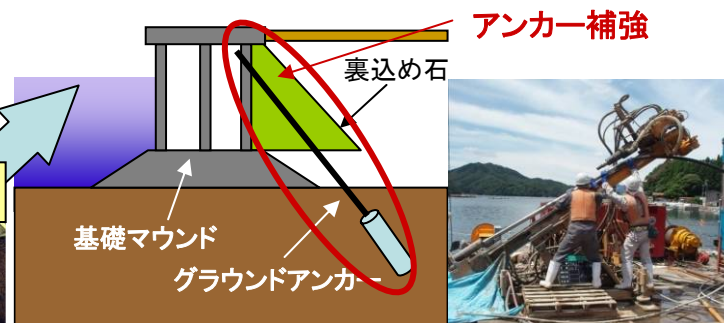
## ◆ グラウンドアンカーの用途拡大

震災の影響で、今後「耐震性」は非常に重要になる

### 宅地造成地耐震補強

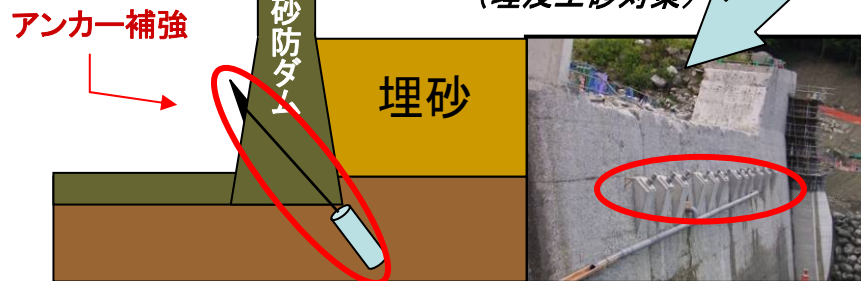


### 港湾・漁港構造物の耐震補強

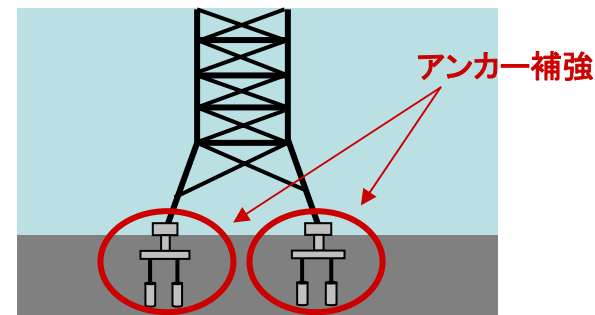


### 砂防ダム(えん堤)の補強と嵩上げ

(埋没土砂対策)

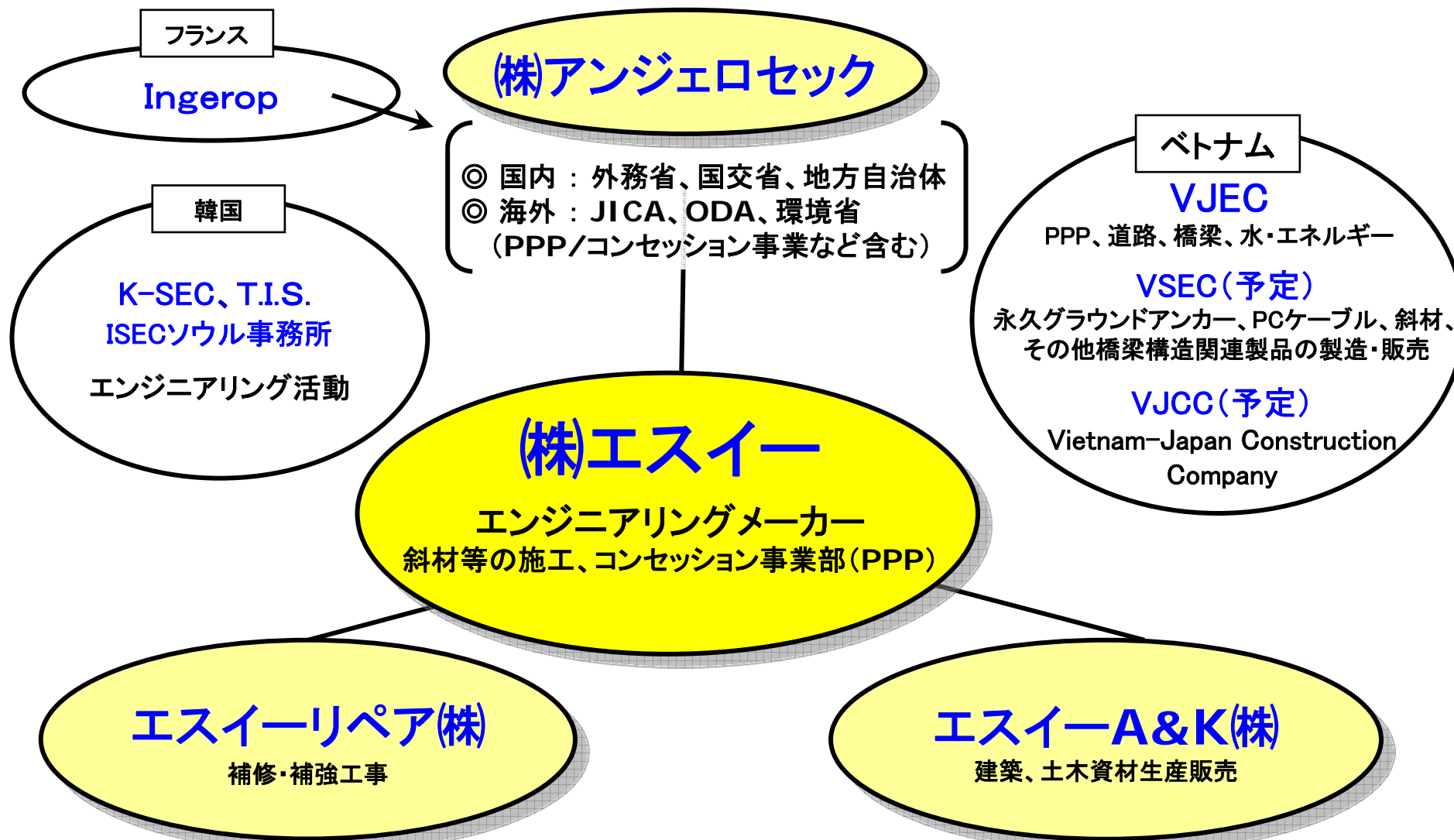


### 鉄塔基礎の補強

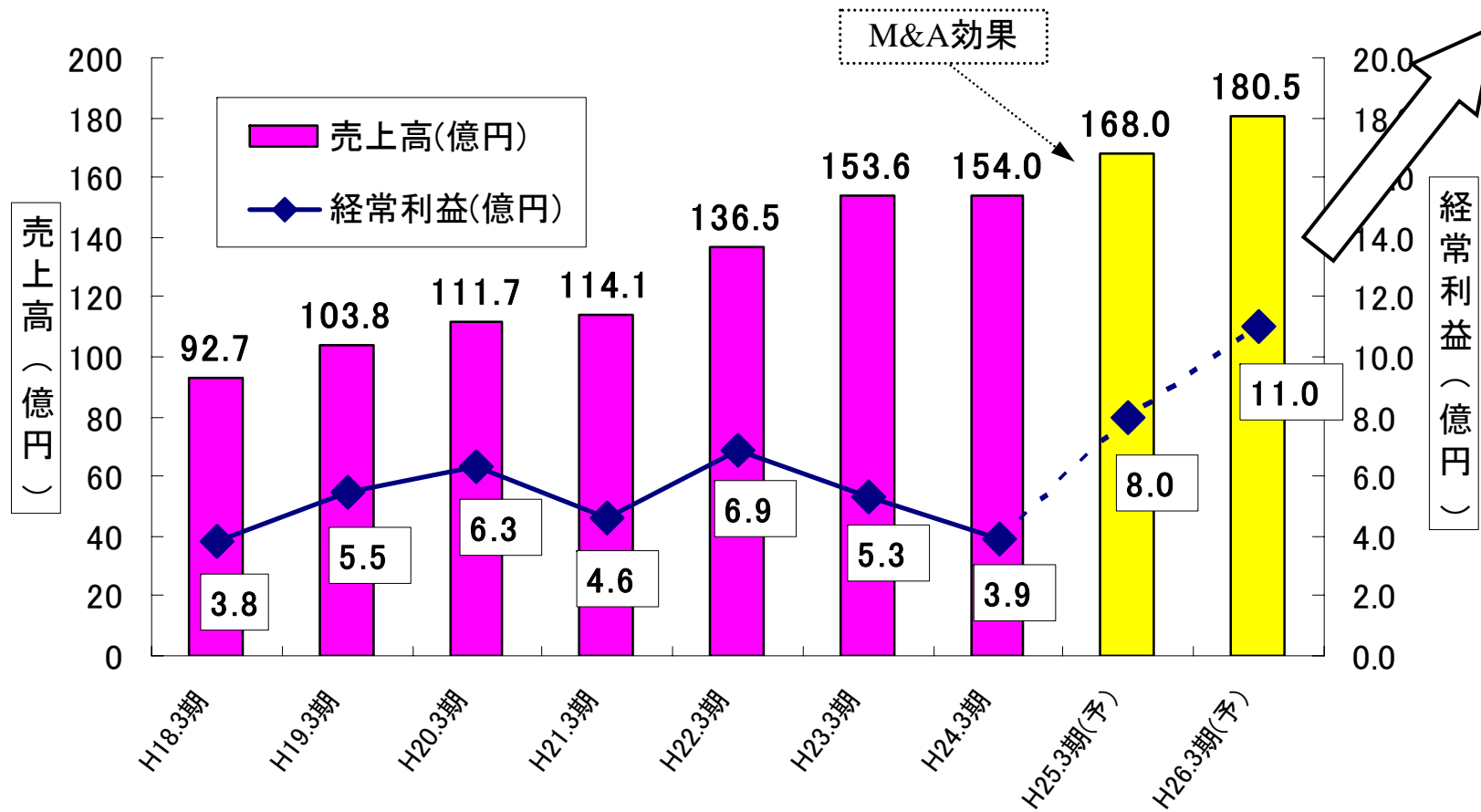


新たに、急速施工できる津波対策防波堤の開発も

# ■ エスイーグループ関連会社の構成



# SECグループ売上／利益計画



ご清聴ありがとうございました



 株式会社 **エスイー**

---


## 将来見通しに関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。したがって、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

---

Globality Engineering Maker

 株式会社 エスイー